

1 Ka-6 中国諸民族男子履きものの固有属性からみた文化クラスター

○下田敦子* 大澤清二* 笠井直美* 近藤四郎**

(*大妻女大, **京都大)

【目的】従来、履きものの装飾性と機能性に関しては、人類学、民俗学、被服学、整形外科学、スポーツ科学などの分野で研究が行われている。しかし、履きもののもつ形態的な特徴を固有属性の視点から取り扱ったものはきわめて少ない。本研究では、その多様性と独自性という点において、きわだった特徴をもっている中国少数民族と漢族の伝統的な履きものに見られる特有の履きものの固有属性を比較検討することによって、その地域分布的特徴を明らかにし、併せて、クラスター分析による文化クラスターの構成(大林 1985)を試みた。

【方法】大丸(1991)の衣服固有属性分類を基本分類として、中国諸民族履きものの37固有属性を定義した。16民族の男子履きもの、95点の標本及び写真資料を対象に、当該属性の有無をダミー変数として数量化した。それら37属性を用いて、諸民族間の距離行列をマハラノビスの汎距離によってもとめ、Average法等によるクラスター分析を行った。

【結果】1) 履きものの固有属性を手掛かりとした16民族間のクラスター分析によると、西南地方、西北地方、東北地方の3つの履きもの圏が構成された。2) 履きものの固有属性数によって、それぞれの履きもの圏(クラスター)に属する民族を比較すると、3クラスター間に明らかな差異を認めた。3) 各民族の履きものの固有属性は、当該民族の生業と密接に関連していた。